

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第3号

令和3年11月10日

横浜市小学校教育研究会

会長 後藤 俊哉

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同4学年部長 岡村 伸一郎

【提案日時】

10月6日(水)

提案 杉内 翔太 先生(大豆戸小)

【会場】

オンライン

司会 福原 創 先生(仏向小)

記録 稲葉 聡太 先生(戸部小)

単元名：水害からまちを守るのはだれ～暴れ川だった鶴見川の変化を追いかけて～

〈提案者より〉

経験まだまだ少ないが学ばせていただきたい。

取り上げた内容…鶴見川(子どもたちにとって身近)

7月…豪雨災害多かったので洪水を取り上げた。

気象災害→地震災害の5倍→子どもたちが興味をもっていった。

「鶴見川のイメージ」

子ども…安全。生き物がいる川。

昔…暴れ川。

「共助」の部分を引き出したくてAさんを取り上げた。

自衛隊の繋がりも押さえた。

消防団のことも取り上げながら関係機関のつながり確かめていった。

最後は「自助」に向かうように単元を構成した。

視点① 子どもの予想と見通しを大切にした単元作り

計画段階

子ども「鶴見川は大丈夫。」→写真→鶴見川は「こんなに大変だったんだ。」

(ズレ)

◎自然と単元を見通す学習問題が成立した。本気の姿が見られた。

△洪水の知識少ない。対策を予想できなかった。

視点② 本気の学習問題を追究し、社会的事象の意味等に迫る授業づくり(中心)

○本時まで

問題点の把握→Aさんの出前授業(人々の対策:遊水地、土地利用など)

→Aさん「100%安全じゃない」→「どのようなことが安全じゃないのか知りたい。」

→本気の学習問題の成立

◎資料を集めたりする姿が見られた。

△単元を見通す学習問題の振り返りから考える児童が少ない。

→調整の姿があまり見られなかった。

○本時について

「大雨があるので安心ではない」出てこなかった。

「内水反乱の心配がある」取り上げた。

資料2の提示強引だった。「自助」へ意識を向けたかった。

☆鶴見川流域へ意識が向いている児童少なかった。向けるには？

☆本時目標が4年生に向けてあっているものだったのか？本時目標に向けるにはどのような手立てがあったのか？

〈協議内容〉 ☆…協議の視点 Q…質問 A…授業者の先生より ・感想

Q 本時でなぜ流域の話を考えてほしいと思ったのか

A 地震は「自助」中心。4年は「自助」「共助」最後。まちの一員として鶴見川を守るを意識したかった。

Q 本時目標に迫れた振り返りは？

A 水位をあげないために自分にできることを考えた児童がいた。

（「鶴見川に水を流さない」など）

Q 子どもたちが8、9時間目の単元を見通す学習問題を振り返る時間が設定されているが、7時間目からの流れを教えてください。

A 単元計画の中でAさんの仕事を深めた後に、「誰がどのような対策をしているかわかった？」と聞くつもりだった。7時で洪水に対する対処に目が向いた。単元を見通す学習問題をまとめられそうという児童が多かった。まとめた時間が8時。3件～6件被害がある。9時はこんなに対策しているのに出ているんだという風に繋がっていった。→細かい事実に気付いた児童がいたこと。それを児童に返せたよかった。

Q 本気の学習問題が既習の学習とつながっていることが多かった。第二分節以降はいままでの学習と切れてしまった部分が多かった。「自助」「共助」「公助」がつながるとよかったと思った。

A 「自助」に向かう問いかけ難しかった。前の時間に今までの対策まとめていたが、「自助」に向かわなかった。「自助」に向かった問いかけがもっとできたらよかった。

・ 星川小 相鉄線 帷子川が流れている。

県として見たときに鶴見川は大きくて災害として捉えやすい。

Q 「自助」に向かう。災害を自分事として捉える4年生難しい。「公助」を実感させていく難しい。自分たちでできること考えさせる難しかった。発信に向けて考えることができたがどうか。

A Aさんからパンフレット7冊もらった。調べやすいのも魅力的だった。情報を集めることで自分たちを守ることができるという自助も考えられる。次に生かしていきたい。

- 「公助」の限界から「自助」に繋げていく。勉強になった。洪水だけじゃなく避難所などのことも知っていくと自分たちでできることを考えるきっかけになるかも。
- 地震でやった。子どもたちが資料を準備していてすごい。今日は勉強させてもらえた。
- 「自助」が独り歩きしている。選択判断で大切なのはこれまでの学習がどう生きるのか。鶴見川にはこういう危険性がある。ということから考えられるといいかも。3件の洪水被害に自分たちがあつたらと考えるともっと考えられたかも。
- 本時の学習問題「自助」がうまくつながらなかったのはどっちをメインで考えるのかだと思う。私たちにできることを考えるとよかった。最初の資料はとてもよかった。

<講師の先生より>

洋光台第一小 中村 智 校長先生

鶴見川に沿った学校にいたときに調べたことがある。堤防をあげていった書物を読んだことがある。

視点①：日常生活とのズレ

普段は穏やか→昔は暴れ川、グラフがいい

「水マス」という資料。市街地は増えているけど災害は減っている。

流域に繋げる布石をうっておくとよかった。

視点②：本気の学習問題の成立

100%安全ではない。自然の力には勝てないへ収束したのはよかった。

本時目標「自分にできることを考える」←「自助」の重要性を捉えたうえで考えるとよかった。

前時の「公助」を一つ一つ確認。テレビやラジオの報道。「公助」を生かすことが大切。

「自分の身は自分で守る」単元の胆。4年生の段階でも大事。みんなで確認する。

4年生は「公助」「共助」「自助」5年生は「公助」。

他の教科との関連も考えていく必要がある。

条例の改訂「自助」理念を具体化など行政からの資料も参考になると思います。

提案ありがとうございました。

文責 遠藤 泰樹 (矢部小学校)